



■ 「一学期を終えて」 勿来高等学校長 木村 敏明

私が勿来高校に着任してから、四ヶ月が経とうとしています。この間、学校行事・対外行事などいろいろなことがありました。毎日の授業はもちろん、防犯講話・交通講話・進路ガイダンス・保健講話・情報モラル講習などの外部講師授業でも生徒の聞く姿勢ができていました。部活動では、高体連では単独で出場したものの県総体では四倉との連合チームで参加したバレーボール部、休部寸前のサッカー部を救った5人の1年生、久しぶりに団体戦県大会出場を果たした弓道部、くぼた校生にもお手前を披露した茶道部、たった一人でもがんばる演劇部、ハートフルなこそへの訪問をはじめ全国植樹祭や高校野球開会式でも歌声を披露した音楽部、地道に水質検査をする理研部、検定取得に頑張るパソコン部などそれぞれに活躍しています。そして何より、今の勿来高校を語る上で欠かせないのが、いわき支援学校くぼた校との交流です。

学校の中に支援学校があるという環境は、前任校が四倉高校で富岡支援学校と共に暮らしていたので、違和感はありませんでした。しかし、よく見ると、3年分先輩なだけあって、各種取り組みの中での試行錯誤や、経験の蓄積の差を多く感じています。

その象徴的な事業の一つに共生プログラムがあります。この事業では、1・2限目に、お互いの学校理解のための研修が行われます。勿来

高生にとっては、障がいに対する正しい理解とくぼた校の取り組みや生活内容を理解するうえでとても大切です。3限目では、くぼた校の授業「作業学習」に加わり、「エコバック、エコたわし製作」「ビルクリーニング」「クラフト、パンマグネット工芸」「パン・クッキー作り」などの各班に分かれて実習しました。くぼた校の生徒から作業手順や工程を学ぶことが趣旨・目的なのですが、必死に教えるくぼた校生、真剣に聞き入れる勿来高生一人一人の姿があまりにも立派で涙が出る思いでした。そして、ビルクリーニングを学んだ生徒はその後の清掃活動が変わります。毎日の掃除の中に、くぼた校から学んだことを取り入れていく生徒の姿は、この事業の意義・素晴らしさを物語っています。福島県内90ある高校の中で、勿来高校でしか味わえない唯一の事業であり、胸を張って日本中に宣伝できる事業です。

7月6日に交流大運動会が開催され、爆弾ゲーム、フライングディスク、玉入れ、綱引きの4種目が行われました。勿来高校の1～3年までの6クラスを更に2分割して12チームを作り、そこにくぼた校から2～3名ずつ加わり、赤・青・黄・緑・白・・・などの色分けしたチーム戦で行いました。両校がうまく溶け込み、まるで一つの学校の運動会のような感じでした。選手となった生徒たちはチームワーク良く、一生懸命

命チームの勝利に向かっていましたが、運営にあたった生徒会や先生方のチームワークは更によく、役割分担にこだわらず臨機応変に補い合っている様子は、2校の連携の良さを象徴していました。

両校の交流事業は、2学期以降においても、美術、家庭、体育、音楽の各授業の中でカリキュラムの合う部分を合同授業にしたり、海岸清掃などのボランティアを一緒に行う予定です。

勿来高校はこれからも教職員一丸となって、インクルーシブ教育の推進をはじめ、社会に貢献できる人材の育成に努めてまいります。今後とも、前向きなご助言をお寄せいただくなど、皆様方のご支援とご協力をくださいますようお願い申し上げます。

■勿来高校・くぼた校交流大運動会の様子



■部活動 活動報告

〈弓道部〉

県高校体育大会弓道競技地区大会

団体 5位 県大会出場

福島県高校体育大会弓道競技

個人 榎本：予選敗退、赤津：準決勝敗退

団体 予選敗退

県総体弓道競技いわき地区大会 出場

〈バレーボール部〉

県高校体育大会地区大会12チーム中11位

県総体地区大会 11チーム中11位

〈サッカー部〉

F3リーグ参加

〈音楽部〉

「第69回全国植樹祭ふくしま2018」

「地区音楽学習発表会」「県音楽学習発表会」

「老人ホーム発表会」「高校野球福島県大会」

〈演劇部〉

地区高校演劇発表会上演作品「オチのない話」

〈茶道部〉

いわき学校茶道連盟総会

第44回 合同発表会（瓶掛席）

〈家庭クラブ〉

「校内家庭クラブ総会」

「第一回お料理講習会 オムレット」

「いわき地区連盟役員会・総会並びにいわき地区指導者養成講座」

「朝食摂取 推進運動」「歯の健康 推進運動」

〈関の子ボランティア〉

春の交通事故防止県民総ぐるみ運動

夏の交通事故防止県民総ぐるみ運動

勿来駅前清掃（毎週水曜日）